

高齢化社会に向け、病院・福祉施設でのエレベーター需要が拡大・多様化しています。一方で、有害廃棄物の削減といった環境に配慮したエコ商品の開発や、安全性に対する関心も高まっています。

東芝エレベータ(株)では、病院・福祉施設での需要の多様化に対応して、従来の11人乗り、15人乗りの寝台用エレベーターに加え、新たに17人乗りと20人乗りの大型サイズのかご室を備えた2タイプを10月に市場投入し、ラインアップの拡充を図りました。

エスカレーター“Kindmover™(カインドムーバー)”シリーズでは、低速待機運転の標準仕様化による省エネと、二酸化炭素(CO₂)削減の推進を図るとともに、手すりベルトのインレット部に手を触れにくくしたインレットブラシ ディフレクターを標準装備しました。また、LED(発光ダイオード)照明の採用により省エネと長寿命、水銀フリーを実現し、更に靴やサンダルなどの挟まれを防止するスカートブラシ ディフレクターにより、安全性を向上させました(ともに有償付加仕様)。

当社は今後も、低炭素社会の実現に向けてCO₂排出量の削減と、より安全で安心な商品開発を進めていきます。

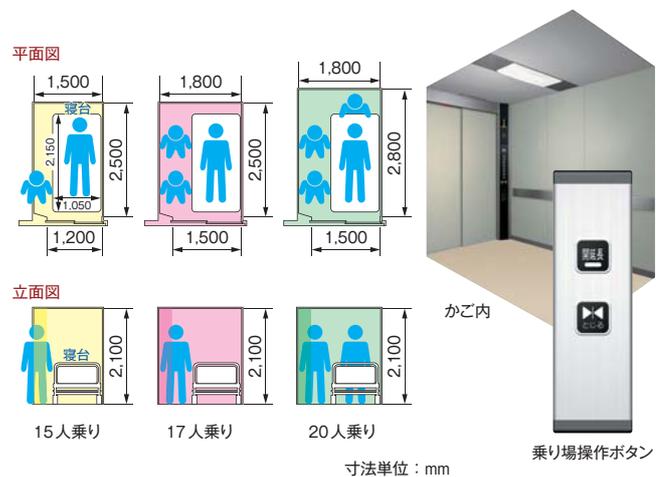
取締役上席常務 統括技師長 原田 豊

● 寝台用エレベーターに大型かご室をラインアップ

寝台に寝た状態の患者と介添者や看護師がスムーズに乗れるスペースを確保した、寝台用エレベーターのラインアップをそろえた。

17人乗りではかご室内の幅を1,500 mmから1,800 mmに、20人乗りではかご室の奥行きも2,800 mmまで拡大した。更に、扉の出入り口の幅も1,500 mmに広げ、寝台の出し入れを容易にした。

また、乗り場側で操作する戸開き延長・戸閉機能、専用運転切換え機能、及び寝台の移動に便利なかご呼戻し機能(いずれも有償付加仕様)により、利便性を更に向上させることができる。更に、床タイルの継ぎ目をなくすかご床長尺シート及びかご側板防汚・耐汚染性化粧シート(ともに有償付加仕様)に対応し、清掃性を向上させることができる。



寝台用エレベーターの特徴
Hospital elevator with large cage

● 安全と省エネを追求したエスカレーター Kindmover™

ユニバーサルデザインを採用したエスカレーター Kindmover™シリーズに、更に安全と省エネをコンセプトとした機能と性能の強化を行った。

利用者がいないときに速度を落とす低速待機運転を標準仕様化することで、当社従来機の常時一定速度運転と比べ約30%の省エネを実現するとともに、各種照明をLED化して当社従来機の蛍光灯照明に比べ約70%の消費電力を削減した。

また利用時の安全性をより高めるために、手すりの入り込み部(インレット部)隙間に幼児らが手を触れにくくする“インレットブラシ ディフレクター”を標準装備するとともに、靴やサンダルなどが踏段とスカートガードパネルとの隙間に挟まれるのを防止する“スカートブラシ ディフレクター”を有償付加仕様として装備できるようにした。



エスカレーター Kindmover™
Kindmover™ escalator